

令和四年度 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 卒業証書授与式 校長式辞

東北に春を告げる広野町の新芽が膨らみ、生命力が漲り始めた今日の佳き日に、保護者の皆様と在校生が見守る中、国や県、そして双葉郡八町村を始め、たくさんのご来賓の方々のご臨席を賜り、令和四年度の卒業証書授与式を挙げていただけますことは、真に喜ばしい限りであり、皆様に深く感謝いたします。

ただ今、呼名されました中学校六十名、高等学校一四五名の生徒諸君、卒業おめでとう。君たちの新たな門出を祝福しますとともに、今日まで陰に陽に支えてこられた保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

中学三年生は海外での研修や遠征を行った後に、そして高校三年生は本日限りで卒業となります。卒業生全員が気持ちに区切りをつけ、四月からの新しい生活に向けた決意を確かなものとするため、卒業式というこの厳粛な場において、今一度ふたば未来学園での日々を思い起こしてみてください。

東京オリンピックが開催されるはずだった二〇二〇年、君たちの入学式は七つの都府県で発令された新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言などの影響で、マスク着用や規模縮小、三密を避けるなど厳戒態勢の中で行われました。その後の学校生活では、全県一斉の臨時休業により登校できない日が続き、学校再開後も授業や行事の変更、部活動の制限と大会やコンクールの中止など、君たちが思い描いたものとは大きく変わってしまいました。この受け入れ難い現実の日々は、五・七・五の型にとらわれない俳人、種田山頭火の俳句で表現するならば、「分け入っても、分け入っても、青い山」、正に出口の見えない暗闇のように感じたことでしょう。

しかし、建学の精神に「変革者たれ」と掲げる本校で学ぶ君たちは、挫けることはありませんでした。新しい生活様式の中で様々に工夫し、いち早くオンライン授業を導入して休校中もタブレットで学習したり、海外研修ができなくてもテレビ会議や国内の留学生との交流を行ったり、さらに達成できなかった部活動などの目標を進路目標の実現へと切り替えたりと、前向きに取り組んできました。去年は、感染症対策をしながらも従来のやり方にとらわれずに、一般公開の文化祭や、三島長陵校舎の生徒と一緒に運動会と球技大会を開催し、また、他校に先駆けて校則改正を議論するなど、変革者に相応しい新しい挑戦を続けてきました。これらの活躍の軌跡は、本県にゆかりのある高村光太郎の詩の一節で例えると、君たちの前に道はなく、君たちの後に道ができたと言えると思います。

改めて話しますが、東日本大震災からの教育復興のシンボルとして開校した本校は、自分の頭で考え抜き主体性を身に付ける「自立」、多様な主体と力を合わせて課題に立ち向かう「協働」、新たな生き方、社会を創り出す「創造」を教育理念に掲げ、教科書だけでなく、地域や世界を舞台に教育活動を展開してきました。三年間、仲間の素顔を見ることができなくても、校歌を歌うことができなくとも、本校での学びを通して君たちには、答えのない難しい課題に、失敗を恐れず挑戦する「志」が養われています。無

自覚な内にも、本校の校歌の谷川俊太郎さんの言葉のように、しなやかに、たくましく、おおらかに成長しているのです。

さて、いつの時代も社会は様々な課題で溢れています。一年以上続くロシアによるウクライナ侵攻では、ウクライナに住む人々の日常が一変し、両国のたくさんの命が失われただけでなく、世界全体の安全保障に加え、経済・エネルギー分野に多大なる影響を及ぼしています。また、先月トルコとシリアで発生した巨大地震では、五万人を超える方が亡くなられ、人々は今もなお余震の恐怖に怯えています。これらの大惨事に対し、日本を始め世界各国では、支援や経済制裁、対話などを続けています。戦争と原爆投下、東日本大震災と原発事故などの悲劇を経験した日本に住み、本校で学んだ君たちは、これらに伴う痛みや悲しみ、危険や被害、その後の復興の険しい道程を容易に想像できるでしょう。これまで、他人の立場を理解し人に伝える演劇活動や、地域課題の解決に向けて実践する探究活動、日本や世界のトップレベルのスポーツ活動を通して君たちは、自身の成長はもとより、地域社会のために活躍し、人々に勇気や元気を与えてきました。これからも社会の課題に向き合い、自分の強みと本校での学びを生かして、価値観や文化の違いの中で、対立や分断を乗り越え、人々が幸せに暮らせる社会の創り手になってほしいと思っています。

先月、宇宙航空研究開発機構 JAXA が、日本の科学技術を結集し、新しい H3 ロケットの打ち上げに挑みました。残念ながら発射直前に制御装置が作動し、カウントダウンの後もロケットは飛ばず、打ち上げは延期となりましたが、その後の会見で担当者が話した「エンジニアはへこたれない」という言葉に、私は大いに期待しています。様々な方法を試し、失敗を重ねて問題点を解決する「トライ・アンド・エラー」の繰り返しこそが、新しい技術を生み出し、大きな成功に繋がります。コロナ禍の三年間、思うように行かないことが多かったかも知れませんが、サテライト校など、恵まれない環境の中で学び続けた現在休校中の五つの高校の先輩方の、伝統を受け継いだ君たちの挑戦は、これからも続きます。諦めない気持ちがあれば、必ず道は開きます。是非、夢や希望を叶え、多くの人に幸福をもたらす明るい未来を築いてください。

結びに、保護者の皆様、本日の喜びは如何ばかりかと拝察いたします。皆様にとってかけがえのないお子様の教育に、私たち教職員を信じてご協力いただき、本当にありがとうございました。そして、卒業生諸君、君たちの卒業は、勿論、君たち一人一人の努力の賜物ではありますが、同時に温かい愛情を持って励まし、支えてこられたご家族や多くの人のお陰でもあります。この旅立ちの門出において、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝え、しっかりとけじめをつけて、中学校卒業生は高い目標を掲げて新たな気持ちで学校生活を送り、高校卒業生は就職先や進学先で更なるチャレンジを続けることを期待しています。無限の可能性を持つ卒業生全員のこれからの活躍に、幸多からんことを心から願っています。

令和五年三月一日

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 校長 郡司 完